

# 私の キャリアと 学び

第4回

原有貴子さん (デロイトトーマツコンサルティング合同会社)

## 主体的に経験を積み、学び、 経営に資する人事のプロをめざす

本連載では、企業で働く人事パーソンに、これまでのキャリアや学びについて語っていただきます。人事のプロフェッショナルをめざして、どのような経験を積み、学んできたのでしょうか？第4回目は、デロイトトーマツコンサルティング合同会社の原有貴子氏にお話をうかがいました。

### 仕事選びの基準

2011年に大学を卒業して、鉄道会社に総合職として就職しました。当時の仕事選びの基準は次の3点です。日本の成長に必要な社会的意義の高いビジネスであること、人の育成や活躍に力を入れている会社であること、ジョブローテーションが豊富で若いうちに多様な経験を積めること、です。私は当時、「いま、そこで働くこと」自体に意義を見出せるかどうかを重視していました。就職活動で出会った鉄道会社の方の「鉄道は人で動いている」「現場で働く社員が花形であり、総合職はそれを支える存在」という言葉に、世界に誇る鉄道サービスを生み出す人々を下支えする仕事に惹かれ、就職を決めました。

人事の仕事については、就職した当初から念頭にありました。人事の仕事に興味をもったきっかけは、大学時代に体育会系水泳部のマネージャーという、選手の活躍を裏方としてサポートした経験にあります。だれかにとってのプラスの存在であり続けるためには、常に相手を見て、どうすれば良いか考え、学び、行動し続けることが必要です。自分の為ががんばるだけではいつか自己満足や慢心が生まれますが、だれかのために頑張ることにゴールはなく、常にやりがいをもって働けると実感しています。そしてこれは、人事の仕事

の魅力でもあると思います。

なお、私がジョブローテーションにこだわった理由は、人事の仕事に特化したエキスパートではなく、経営の視点から人に対する施策を考えられる人事のプロフェッショナルになりたいと考えていたからです。人事という強みをもった経営人材になるということは、いまも変わらない私の目標です。

### 現場3部署、人事3部署を経験

入社した鉄道会社では、1年9カ月間、新幹線の現場で車掌、駅員、運転士を経験しました。仕事のやり方や職場課題、どんな人たちがいてなにを大事にしているのかといったことについて、肌で学ぶことができました。ビジネスを知らずして最適な判断はできません。この現場経験は、後の人事部門での業務において必要不可欠な貴重な経験となりました。

その後、現業機関、本社、関連ビジネスの3部署の人事部門を経験しました。現場の人材の教育・賞罰、会社全体の要員計画や法令改正に即した施策立案、一定規模のビジネスの人事全般に従事しました。若いうちに人事業務を網羅的に、かつ裁量をもってやりきる経験を多数積ませていただけたことは、現在のコンサルタントとしての業務にも非常に活かしています。

ただ、世の中の変化の最前線に立ち、日本企業の人や組織を変革する仕事をしたいと考え、コンサルティングファームへの転職を決意しました。

### コンサルタントとして

コンサルタントの仕事は皮剥ける機会となりました。日々、目指す姿を実現するために、何が本質的課題で、それに対してどう取り組むか、どうすれば効率



Profile  
原有貴子（はら・ゆきこ）

デロイトトーマツコンサルティング合同会社  
コンサルタント

2011年京都大学文学部卒。2020年グロービス経営大学院大学経営研究科経営学修士修了。  
2011年に大手鉄道会社に入社し、現場部門、人事部門を経験。2017年にコンサルティング  
会社に転職。2019年よりデロイトトーマツコンサルティング合同会社にて組織・人事制度  
の改定等、HR領域のコンサルティングに従事。

的かつ効果的にやりたいことを実現できるか、という  
ことを考えています。

人事の仕事は定例的でありながら重要かつミスが許  
されない業務が多く、守りに入りがち傾向がありま  
す。しかし、コンサルタントは外の立場だからこそ、  
上司・部下や評価者・被評価者といったしがらみなく、  
いままでのあたり前に対し、それが本当にベストか、  
より良い方法があるではないかということをご提案し、  
お客さまにとっての最適解を見つけ、変革する  
ためのお手伝いができるので、やりがいがあります。

## マインド、スタイル、スキルと学びの姿勢

私は、人の行動は、マインド、スタイル、スキルの  
循環により形作られると考えます。自分はこうありた  
いというポリシーのもと、それを実践し、実現に必要な  
知識や能力を積み上げていくサイクルを繰り返すこ  
とで、その環が広がり、ワンランクアップした視座の  
もと、新しい世界に挑戦できるようになります。たと  
えば、私が働きながらグロービス経営大学院に通学し  
たのも、人事として実務を推進するなかで、経営を正  
しく理解することが必要不可欠だと感じたからです。

さらに、そのように行動していれば、シンクロニシ  
ティを生み、自ずと自分が望む人との出会いを得たり  
成長する機会をいただけたります。私は、数々の必  
然的偶然の結果、いまがあると感じています。

まさにJSHRMもその一つです。社会人3年目の  
ころ、人事について学びたくてもやもやしていた折、  
たまたま仕事で出会ったJSHRM役員の方にお誘い  
いただき参画するようになりました。JSHRMの研究  
会では、普段仕事をしながら考えていることを話し、  
逆に社外の人事の方々がどんなことを考えているのか  
知り、客観的なフィードバックをもらうことで、腹落

ちすることができたことをよく覚えています。

学ぶ方法は、勉強会やセミナー、転職等多様な選択  
肢のなかから自分に合うものを選べばよいと思います。  
大切なことは、能動的であること、つまり、お客さま  
として参加するのではなくその場に主体的に参加し、  
自分の考えを発することです。学生時代の私は「間違っ  
たことを言うてはならない」という強迫観念に駆られ  
ていましたが、人事の仕事を通して「人間誰しも不完  
全だからこそ、生涯学び続ける意味がある」と考える  
ようになりました。自分の不完全さに対してネガティ  
ブにならず、そんな自分を慈しむことで、何事にも前  
向きに、自分らしく取り組めるのではないのでしょうか。

## 女性だからこそ考えるキャリア

私は女性なので、いつか産休・育休により仕事を離  
れる可能性も想定し、20代のうちにできる限り多く  
の経験を積み、キャリアを構築しなければと、時間を  
惜しんで活動しました。その結果、多くのご縁に恵ま  
れ、想像以上に充実した10年間となりました。

30代となったいま、憑き物が落ちたかのように、  
キャリアへの不安はなくなりました。なぜなら、キャ  
リアに正解などなく、大切なのは「幸せに生きるため  
に働くこと」であると気付いたからです。自分が納得  
できる選択を行い、行動し、成長するというサイクル  
を積み重ねていけば、自ずと自信がつかますし、次の  
ステップを自ら描くことができるはず。いまは、  
家庭と両立しながら、働くこと自体を楽しんでいます。

これからも、仕事を通して誰かの働く幸せに貢献で  
きるよう、経営に資する人事として変革を担うプロ  
フェSSIONナルを目指して励んでいきたいと思ひます。

（取材協力 日本人材マネジメント協会（JSHRM）

聞き手・まとめ 編集部）